

徒然なるままに…4 - 校内研④(社会科理論研)より

今回は、社会科理論研として、指導第一課 筒井順也指導主事にご講話いただきました。指導要領で示されていることを中心に、社会科の入門編としての研修になったのではないのでしょうか。

今回感じたのは、先生方の質問の中心が問いを子どものものにするための問いのつくり方と授業の仕組み方についてだったことです。これは、研究推進の柱の一つである「問い」に対して、先生方が意識を持ってくださっている現れだと思います。研究を推進している者としては、とてもありがたいことです。

さて、質問に、単元を貫く学習問題の設定と単元構成について挙げられました。これを「構造化」をキーワードに考えてみたいと思います。

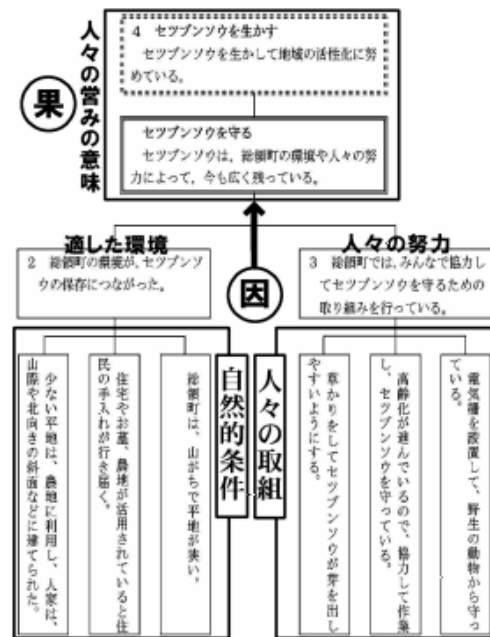
「知識の構造図」が紹介されました。これは、社会科の各授業で教えるべき内容を明確にするために、ここ何年かで取り沙汰されたものです。しかし、この図から何を見出したらいいか分からなかったり、この図をつくるのが目的になってしまい、単元・授業に生かされなかったりする場合が多くあるのではないのでしょうか。

〈図1〉は、4学年「セツブンソウのまち総領町」における内容を構造化したものです。この単元は、総領町の人たちがセツブンソウを守るわけを調べることを通して、地域らしさであるセツブンソウを生かして、町を活性化させる取組について考える学習です。この教材（セツブンソウを守る取組）を構造的にとらえると、総領町でセツブンソウが保護されているわけが総領町の自然的条件と総領町の人々の努力から成り立っており、その結果として、セツブンソウが守られ、地域の活性化が図られているということになります。

この構造をどう生かせばよいのでしょうか。

一つ目は、単元を貫く学習問題とそれを追究する単元を組み立てることです。セツブンソウを生かした地域活性化から、「なぜ、総領町の（図1:単元「セツブンソウのまち総領町」における内容構造）人たちは、小さくて地味な花のセツブンソウを守る取組をしているのだろうか。」という問いが設定できます。それに基づいて、総領町の人たちがセツブンソウを守る取組をするわけを「自然的条件」と「人々の努力」に着目して考え、地域活性化というこの取組の意味に気付いていくという単元構成が考えられるでしょう。さらに、教材の内容一つ一つから問いを見出し、それを筋道立てて組み立てることによって、単元を問いでつなく構成をすることが考えられるでしょう。これは、「問い続ける」という本校の学力観にもつながっているかもしれません。

二つ目は、思考の仕方を見出すことです。この単元は、セツブンソウの生育に適した



自然的条件と人々の努力という要因から、地域活性化策という結果を生もうとしているという因果的な構造になっています。とすると、問いの追究の筋道、つまり、単元の流れも、わけを見つけ、積み上げていく構造となる必要があります。

内容を構造的にとらえると、そこには、仕組みがあります。それが、思考の仕方となります。今回の「因果」の他には、「比較」（二つ以上のものを比べながら違いや共通点を見出す。）、「分類」（観点・側面ごとに分けて考える。）、「条件的」（ある現象が成立するために必要なことを見出す。）、「関係・関連」（ものの関係を見出す。つなげたり、広げたりして考える。）などが考えられるでしょう。

構造化は、難しいことと考えるてください。教材研究をする際、子どもにとらえさせたい、考えさせたいと思う内容を中心に、その他の内容を関係や意味でつないで、構造的に整理してみてください。きっと、筋道や仕組みが見えてくるはずですよ。こう考えてみることに意義があるのです。

板書も構造的で、一目で思考が分かるようにまとめたいと思うのですが、なかなかです。日々、構造的にもの考えるようにすることで、授業が筋道立てられるのではないかと思います。子どもの思考や表現も構造的になり、思考の仕方やまとめ方を育てていくことになるのではないかと思います。板書のうまい先生がおられますよね。板書については、またどこかで研修したいです。

伝えたいと思って、パソコンに向かったのですが…もしかしたら、分かりにくい内容になったかもしれません。申し訳ありません。

何人かの先生から、「いつも読んでるよ。」と声を掛けていただきました。とてもありがたく思いました。なかなかゆっくりお話できない中で、何とかして、先生方と学びを共有化したいと思い、「徒然なるままに」書かせていただくことにしました。懲りることなく、付き合っていただければ幸いです。

もし、何かありましたら、いつでも声を掛けてください。いっしょに考えましょう。

暑い夏真っ盛りです。研修や校務で忙しいですが、せっかくの夏ですから、楽しみたいものです。旅行で他の町に行って、帰省で高速道路を走っていて、美容院で雑誌を読んでいる、新聞やテレビを見ていて…その中で、何か一つ、「！」や「？」を見つけてみませんか。もしかすると、意外な教材と出会うかもしれません。